

それでも描かずにはいらなかった——。戦後80年シベリア凍土からの祈りを未来へ。

『サンジュアンの木 —画家 香月泰男—』 萩原聖人、伊勢佳世より出演コメント到着 5月21日、萩原聖人・伊勢佳世が山口県長門市を訪問 市長表敬・飯山八幡宮での成功祈願を実施へ

山口県長門市出身の画家・香月泰男の生涯と内面に迫る映画『サンジュアンの木 —画家 香月泰男—』が、5月下旬より撮影を開始いたします。戦争体験を創作の原点とし、「シベリア・シリーズ」をはじめ数々の作品を描き続け、国際的にも高く評価されてきた香月泰男。本作は、戦争体験を抱えながらも、故郷で家族とともに生き、描き続けた香月泰男の姿を追う映画です。「シベリア・シリーズ」に込められた記憶と、香月にとって絵を描くことがどのような意味を持っていたのかを、ドキュメンタリーとフィクションを交差させながら描き、記録だけでは捉えきれない家族の物語、そして香月の“内面の風景”にまで踏み込んでいきます。監督は、『地雷を踏んだらサヨウナラ』『島守の塔』などを手がけ、「戦争がもたらすものを撮る」ことを信条としてきた五十嵐匠。フィクションパートでは、香月泰男役を萩原聖人、妻・香月婦美子役を伊勢佳世が演じます。先日行われた山口県長門市での製作発表を経て、このたび、両名より本作への参加に寄せたコメントが到着しました。また、撮影開始を前に、5月21日には出演俳優が山口県長門市を訪問し、香月泰男が生涯愛した故郷・長門の地から、本作はいよいよ本格的に始動いたします。

「絵を描くことは生きること」——。戦争の記憶を抱えながら、キャンバスに向かい続けた香月泰男の生き方を通して、私たちがいま見つめるべき平和のかたちを問いかけます。本作は5月下旬にクランクインし、8月完成予定、劇場公開は来年を予定しています。現在、製作費の一部を募るクラウドファンディングにも挑戦中です。

<https://readyfor.jp/projects/kazukiyasuo> ぜひ貴媒体にてご紹介くださいますよう、お願いいたします

映画『サンジュアンの木 —画家 香月泰男—』出演 萩原聖人 コメント



【コメント】

映画「島守の塔」は完成するまでに、さまざまなハードルが次々と立ちました。それらをすべて乗り越え、完成させて下さった五十嵐監督。「生きる証」に対するその執念は香月氏と同じものを感じます。監督と香月氏が残したかったものを、またともに「執念」をもって作りあげられることを心から楽しみにしています。

【プロフィール】

1993年、映画『学校』、『月はどっちに出ている』、『教祖誕生』で日本アカデミー賞新人俳優賞、話題賞（俳優部門）を受賞。『マークスの山』(95)、『CURE』(97)で日本アカデミー賞優秀助演男優賞他を受賞。以降も映画、ドラマ、舞台に加え、ナレーション、吹き替え、アニメーションなど幅広く活躍している。近年の主な出演作に、映画『Fukushima 50』(20)、『島守の塔』(22)、『海の沈黙』(24)、『栄光のバックホーム』(25)、『ハローマイフレンド』『君が最後に遺した歌』『2126年、海の星をさがして』(26)など。主演映画『月の犬』が公開中。

映画『サンジュアンの木 —画家 香月泰男—』出演 伊勢佳世 コメント



【コメント】

この度、香月婦美子役を演じさせていただきます伊勢佳世です。「夫の右手」という婦美子さんが泰男さんのことについて書かれた本を読んだ時、なんて素敵なお夫婦なんだろうと、すごく温かい気持ちになりました。羨ましくらい良いコンビだな、と思ったので、今回演じる上で、萩原聖人さん演じる泰男さんとのコンビ感やご夫婦の温もりを大切に演じたいと思っています。また、五十嵐監督とのきっと熱くなるであろう撮影の日々もとても楽しみです！

【プロフィール】

神奈川県出身。大学在学中に劇団俳優座養成所に入所。2008年より前川知大主宰のイキウメに参加。以降退団までほぼすべての作品に出演。退団後も映像など様々な作品でも活躍中。近年の主な出演作に、舞台『The Weir〜堰(せき)〜』(26 / 桐山知也演出)、『ヴォイツェック』(25 / 小川絵梨子演出)、『Bug Parade/バグ・パレード』(25 / 小沢道成演出)、『La Mère 母』(24)、『Le Fils 息子』(21・24 / 共にラディスラス・ショラー演出)、『Q : A Night at the Kabuki』(19・22 / 野田秀樹演出)、『父と暮せば』(18・21 / 鶴山仁演出) ドラマ『未恋〜かくれぼっちゃん〜』(KTV)、『TRUE COLORS』(NHK-BSP)、『心霊内科医 稲生知性』シリーズ (CX)、CM『サントリー 金麦』シリーズなど。映画『じょっぱり—看護の人花田ミキ』(監督：五十嵐匠)にて若かりし頃の花田ミキを好演した。



五十嵐匠監督は、今回のキャストिंगについて、俳優の萩原聖人さんを起用した理由を「前作で困難な撮影をともに乗り越えた“戦友”のような存在であり、もう一度一緒に作品を作りたいと思った」と説明しました。また、妻・婦美子役の伊勢佳世さんについては、「舞台での演技を見て、その透明感に惹かれた。家族の温かさを表現できる存在だと感じた」と話しました。

作品については、「シベリア抑留という重いテーマだけでなく、家族との日常やぬくもりもあわせて描くことで、より多くの人に届く映画にしたい」としたうえで、「戦争を知らない若い世代にも、自分に近い出来事として感じてもらえる作品にしたい」と意気込みを語りました。

さらに演出面については、「日常の中に、ふとシベリアの記憶がよみがえるような表現を取り入れたい」とし、戦争体験と現在の生活が交差する描き方を目指すとしています。

映画『サンジュアンの木 —画家 香月泰男—』五十嵐匠監督 コメント



山口県大津郡三隅町（現長門市）出身の洋画家香月泰男。香月泰男は昭和の時代を代表する洋画家の一人です。

太平洋戦争によって召集を受け満州へと渡り、シベリアで約二年間もの抑留生活を送った香月は帰国後、兵役と抑留体験を元にした「シベリア・シリーズ」を描きました。香月はシベリアの収容所からサン・ジュアンの豆を持って帰って家の庭に埋めました。

香月は妻婦美子に言いました。「自分が死んだら分骨して、サン・ジュアンの木の下に埋めてくれ。サン・ジュアンの木に生まれ変わったら、孫たちがよじ登ってくれるだろう・・・」。50年以上たった今も、三隅町の香月の自宅の庭にはサン・ジュアンの木が朝の光を浴び、黄金色に輝いています。

世界的絵画「シベリア・シリーズ」を中心とした数多くの代表作の他、二年余りにわたって家族に宛てて送り続けた絵手紙（ハイラル通信）や、遊び心たっぷりに作ったオモチャなど、香月泰男の独自の世界をあますことなく映画化し、画家香月泰男の人的魅力と作品の深さ、そして素晴らしさを全国に発信するものです。

【監督作品】

- 長編ドキュメンタリー映画「SAWADA」（1996）毎日映画コンクール文化映画グランプリ
- 映画「地雷を踏んだらサヨウナラ」（2000）（浅野忠信主演）毎日映画コンクール 主演男優賞
- 映画「HAZAN」（2003）（榎木孝明主演）ブルガリア・ヴァルナ国際映画祭グランプリ
- 映画「長州ファイブ」（2007）（松田龍平主演）ヒューストン国際映画祭 グランプリ
- 映画「二宮金次郎」（2019）（合田雅吏主演）
- 映画「島守の塔」（2022）（萩原聖人、村上淳、吉岡里帆、香川京子・監督脚本）
- 映画「じょっぱり-看護の人 花田ミキ」（2024）（木野花、王林、伊勢佳世・監督脚本）ブルガリア映画祭赤十字特別賞

映画『サンジュアンの木 —画家 香月泰男—』出演俳優 長門市訪問概要

日時：2026年5月21日(木)
市長表敬：9時30分～長門市役所 市長応接室
成功祈願：10時30分～飯山八幡宮

撮影開始を前に、萩原聖人・伊勢佳世が山口県長門市を訪問します。市長表敬および飯山八幡宮での成功祈願を通じて、本作の始動を地元の皆様とともに分かち合う機会となります。取材をご希望の報道関係者の方は、下記お問い合わせ先まで事前にご連絡ください。当日の詳細・集合時間等について、追ってご案内いたします。

お問合せ先：香月泰男映画制作実行委員会 〒759-4101 山口県長門市東深川2366-11 ながとてれび内 TEL:0837-23-1541
Mail:info@kazuki-movie.com

サンジュアンの木

香月泰男 プロフィール

1911年、山口県大津郡三隅村、現在の長門市三隅に生まれる。東京美術学校、現在の東京藝術大学で油彩画を学び、卒業後は美術教師として勤めながら、国画会を中心に作品を発表した。1939年には《兎》で第3回文部省美術展覧会の特選を受賞し、若くして画家としての評価を確立する。

1943年、太平洋戦争下で召集され、旧満州・ハイラルへ配属。敗戦後はソ連軍によってシベリアに抑留され、過酷な収容所生活を経験した。1947年に帰国後、再び山口の地に戻り、教職に就きながら制作を続ける。その後、従軍と抑留の記憶をもとにした代表作《シベリヤ・シリーズ》を描き続け、戦後日本美術史に大きな足跡を残した。

黒と黄土色を基調とする重厚な画面には、戦争、死者、記憶、故郷、家族への思いが深く刻み込まれている。一方で、身近な草花や食卓、家族を描いた作品、廃材などを用いた「おもちゃ」と呼ばれるオブジェも制作し、その表現は沈黙の中に温かさやユーモアを宿している。

1974年、故郷・三隅の自宅で死去。生涯の多くを山口に根ざして過ごしながら個人の体験を普遍的な祈りへと昇華させた画家として現在も高く評価されている。

「代表作《シベリア・シリーズ》のひとつ《日本海》に象徴されるように、香月は黒と黄土色を基調とした画面に、戦争、抑留、望郷、死者への鎮魂を刻み込んだ」



香月泰男《日本海》1972年／油彩・方解末・木炭／カンヴァス／山口県立美術館蔵

映画『サンジュアンの木 一画家 香月泰男』公式サイト・SNS情報

オフィシャルサイト：<https://kazuki-movie.com/>

クラウドファンディング：<https://readyfor.jp/projects/kazukiyasuo>

X：https://x.com/kazuki_sjtmovie

Facebook：<https://www.facebook.com/kazuki.movie>

YouTube：<https://www.youtube.com/@kazuki-movie2026>

お問い合わせは以下まで

配給・宣伝：ポルトレ（石原）

info@portrait-c.com / 代表：03-6456-3990

携帯：090-4856-1458

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿4-11-9 クオーレエビス303